

三股町交流拠点施設整備事業

基本計画

<資料編>

1. 諮問・答申
2. 審議会議事録
3. 審議会委員名簿

三交推発第 17 号
令和 2 年 10 月 29 日

三股町交流拠点施設整備事業審議会
会長 渡邊 知昌 様

三股町長 木佐貫 辰生



三股町交流拠点施設整備事業基本計画の策定について（諮問）

三股町交流拠点施設整備事業審議会設置条例第 2 条の規定により、次のとおり諮問いたします。

1. 諮問

三股町交流拠点施設整備事業基本計画の策定について

2. 諮問理由

令和 2 年 3 月に策定した「三股町 交流拠点施設整備事業 基本構想」に基づき策定する「三股町 交流拠点施設整備事業 基本計画」について、専門的かつ多角的な視点からご審議いただきたく、諮問いたします。

3. 答申希望時期

本諮問に対する貴審議会のご意見については、令和 3 年 3 月中の答申を希望します。

令和3年11月17日

三股町長 木佐貫 辰生 殿

三股町交流拠点施設整備事業審議会
会長 渡邊 知昌



三股町交流拠点施設整備事業基本計画について（答申）

令和2年10月29日付け三交推発第17号で諮問のあった三股町交流拠点施設整備事業基本計画について、慎重に審議した結果、以下のとおり意見を附して、原案を了承します。

- 1 まちの「身の丈にあった」施設とするため、維持管理費も含めたトータルのコスト意識をしっかりと持ち、「事業のねらい」の達成に真に必要な整備計画とするとともに、持続可能な事業経営を図ること。
- 2 民間と連携して行う検討作業の進捗状況について、今後設立される官民共同事業体が中心的役割を担う場合においても、関係主体が情報共有し意見反映できる体制を構築すること。
- 3 引き続き「町民とともに考え、町民とともに進める」スローガンを継続し、町民の主体的な活動につながるような取り組みを意識しながら、行政と町民及び事業者の共感を生む事業を目指すこと。
- 4 「地域密着型官民連携」については、地場産業の活性化と地元事業者の主体性の発揮に繋げることを意識し、新たな技術やアイデアを内外から幅広く取り入れながら進めること。
- 5 異常気象や感染症の拡大など、予期せぬ非常事態への対応が求められる社会背景を踏まえ、平常時の利用だけでなく、非常時の避難所利用や支援拠点としての役割も想定した整備計画とすること。

令和2年度第1回五本松交流拠点施設整備事業審議会議事録

| | | | |
|-----|--|-----|---------------------|
| 日 時 | 令和2年10月29日(木) 13時30分～15時15分 | 場 所 | 三股町役場3階 議会全員協議会室 |
| 出席者 | 【委員】渡邊知昌氏、西山繁敏氏、廣瀬吉弘氏、森秋生氏、原口耕司氏、杉本弘文氏、細山田三保子氏、黒木哲也氏 【事務局】西山室長、河野係長、清山、宮元 | | |
| 欠席者 | 関西剛康氏、松竹昭彦氏 | | |

内 容

1 開会

2 諮問

【木佐貫町長】

三股町交流拠点施設整備事業審議会設置条例第2条の規定により、次のとおり諮問いたします。

(1) 諮問

三股町交流拠点施設整備事業基本計画の策定について

(2) 諮問理由

令和2年3月に策定した「三股町 交流拠点施設整備事業 基本構想」に基づき策定する「三股町 交流拠点施設整備事業 基本計画」について、専門的かつ多角的な視点からご審議いただきたく、諮問いたします。

(3) 答申希望時期

本諮問に対する貴審議会のご意見については、令和3年3月中の答申を希望します。

3 会長あいさつ

【渡邊会長】

皆さん、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。只今、町長より諮問を受けました。令和2年度は基

本計画を作っていくことで諮問を受けております。答申時期は来年の3月までと明記してありますので、それにそって、この審議会を進めていきたいと思っております。

昨年は、基本構想を取りまとめるために2月に審議会を開催して以来、皆様と顔を合わせる機会がございました。3月はコロナが拡大しつつある時期でありましたので、書面での審議会の決定ということでさせていただきました。大変恐縮ではございましたが、そのような形で諮問に対する答申をさせていただきました。

コロナが拡大したりして、第2波が来たりと、勢力を増しています。その中、事務局が思っていたことができなかつたろうと思っております。最近になって、事務局の方でも調査による検討、町内の様々な声を賜りながら、ここによく第1回審議会の、基本計画に対する基本的な方針をまとめて、皆様に説明し審議をしていただくという風に思います。

また、審議委員を引き続きお願いするほか、お2人が交代ということで新しく審議員になられています。ご苦勞おかけするかと思っておりますが、スムーズな審議会が行われるようご協力をお願いいたします。

以上で挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

4 議事録署名者の指名

【渡邊会長】

本日の審議会の議事録署名者に杉本委員と黒木委員を指名したいと思います。よろしくお願いいたします。

5 会議成立の報告

【事務局】

条例の第7条第2項において「審議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。」と規定されています。本日は2名の委員が欠席ですが、過半数の出席がありますので、会議が成立

していることをご報告します。

6 協議事項

①今年度の検討状況について

【廣瀬委員】

よかもんやの移転は、少し難しいと考えているということでしたが、私達も九州管内をいろいろ見る中で、道の駅を視察すると、どこも繁盛している。道の駅のような機能を追加すると、集客が見込めるのではないだろうか。

特色あるテナント事業者にも入っていただきながら、集客は三股の特産品的なものを集めて、よかもんやのようなかたちでやると、非常に集客も見込めるのではないかと思う。事業者が行うことで、拡大してやれると、もっと集客が見込める。

生活費必需品を扱う店が必要だというのはなしもありますが、三股の特徴があるものが集まるお店ができれば、よそから人が来て、というかたちができるのではないかと思う。このようなことも含めて、よかもんや移転の考え方をどう受け止めていけばいいのか、気にはなる。

【渡邊会長】

今の発言に関連して。

国の補助事業で整備していったということでしたが、今言われたように、よかもんやも手狭になってきている。よかもんやは第1期の都市再生整備事業で整備していった経緯があるとのことでしたが、それを新たな考え方で、位置づけとしては変わらないが、新たな場所に移転して、役割を発揮していくという考え方では、補助事業は通らないのではないかと。そうすると移転ということも考えやすくなるのではないかと思う。

よかもんやは近くのスーパーとはちょっと違う。品物が、そこにしかないものをおいていたりする。出すものも、地元の人が出しているし、同じ野菜でも、見た目も親近感が違う。そのようなことを考えると、移転の方向もあるのかな、と考えている。

商工会がどのように考えているかわからないが、移転すればスペースが余ってくるとか、大変だと思う。

【森委員】

道の駅は、すごく繁盛しているところは、やはり特徴性がある。何もかもというよりは、これ、というものが大事。

よかもんやの話が出ていますが、置いてあるものは三股のものばかりではない。職員教育もあると思う。同じものを出すにも、三股のものには、ひとくち声を添えて販売するとか。同じ生産者に悪いが、そういうことも大事だと思う。

いま、えびのの道の駅がすごく人気がある。特徴を出さなければいけない。良いものがあれば、遠方でも人は来る。

圏域で考えれば、三股はどこからでも来やすい、真ん中に位置している。店を移転するというはなしをする前に、店自体を魅力のあるものにすることが大事だと思う。

移転しても良いが、これから1～2年の間に、まだ特徴を出すことができれば、十分に交流拠点からよかもんやのほうに人の流れが作れるのではないかと思う。

この前の役場での事前説明でも話したが、交流拠点を含めた周辺の回遊性を考えないと、あそこだけポツンとつくってもダメだと思う。

三股町内を考えた時に、五本松と駅は近い。五本松団地跡地だけで物事を考えないほうがよいと思いました。

【渡邊会長】

稼ぐ施設と言うことで、拠点に整備したものが、よかもんやにうま

くつながるようにできれば、それが一番いい。よかもんやを移転すれば、おおきく発展するかもしれない、ということもあるので、そのあたりを踏まえて、いろんな意見を聞きながら検討していく必要があるのかな、と思います。

【森委員】

私は、郷土料理の本を出させていただいた。特徴のあるもの、というと、テレビの料理番組やスマホなどで出てきて、作り方がすぐに見ることができる。三股の中に、郷土料理を伝承できる人は、高齢化が進んでいて、伝えてくれる人はいなくなる。私たちより年配の人に聞きたくても、聞けなくなる。

同じ“ゆべし”をつくるにしても違う。おなじものができるわけではない。私達が生きていうちに特徴あるものを出すことができれば、すごくいいと思う。

本を売りに回っていないが、2000冊売れている。一人一人の農村女性、今まで培ってくれた私たちの先輩のものを、あの本に載せている。

やるなら、時期は今しかない。新しいものを多くの企業が手をつけようとしているので、それに太刀打ちするには、相当なエネルギーが必要だと思う。

【杉本委員】

根本から覆すような話になってしまうかもしれないが、今ご説明していただいた内容を聞いての意見として、こういう機能を入れて、こういう拠点を整備する、というのは、ある意味、一昔前の考え方かなというような印象を受けます。

森委員の話にもあったが、時代の流れとしては6次産業の時代は過ぎていて、12次産業に移っている。6次産業に加えて、医療・福祉、雇用創出なり、他分野との連携をやりながら、仲間を増やしてい

く、交流人口よりも関係人口を増やしていく時代になってきていると思う。

森さんは75歳とおっしゃったが、現在私は、もっとご高齢の方とコロナの関係で業態変更に関して、一緒にやっている。

ある店舗に助成金がおりていて、田舎暮らし、伝統料理の作り方などを、ユーチューブでオンラインで流し、オンライン講座にして収益をあげよう、という取り組みを行っている。今の時代がそうになってきている。繰り返し見るのでユーチューブなどは再生回数が延びて収益が上がっていく。

バーチャルオフィスというのも、この会議室ぐらいの大きさに10店舗、20店舗入れようというもので、家賃というか、登録料みたいなもので、1社で10万円とか家賃をはらうのは厳しいので、3千円とか5千円で、そこの面積の収益を賄う。というような考え方も含めて、だいぶコロナとかで言われてきていたようなことが、どんどん出てきていると思う。

ソフト支援をかなり綿密に検討すれば、拠点という施設は、そんなに大きくなくても、拠点となる「場」があれば、なんとかなるような時代になってきている。

よかもんやの活用にしても、交流拠点との連携も可能になってくる。ユーチューブだの、動画作成だの、そういうプロモーションというのは、若者の雇用創出にもつながるので、そのあたりは6次産業化と言わず12次産業、新潟が有名ではあるが、そういうものを取り入れてやっていかないと。特徴が必要、というはなしが出たが、新しいことを取り入れてやっていかないと、特徴というよりも、ワクワク感みたいなものがないと、人が寄ってこない。

そこをどう出すか、ということをしっかり検討されたほうがいいと思っています。

【細山田委員】

わたしはよかもんやのファンです。よかもんやは、あそこにあるから魅力がある、というイメージも、ちょっとあると思う。

新しい拠点の方で、三股の特産物とか野菜の販売をして、それが、要するに収益になる。そして、いまのよかもんやのところは、私が思うには、もし商品を（交流拠点に）持って行くのであれば、加工したり、体験ができたり、プラス食べる場所。今はそういうところは、みなさん探してでも行きます。隠れ家みたいなところを。だから、どんなに小さいところでも駐車場が満杯。

そこで、教室みたいに一緒に作って、三股町のいろんな特産品を使った料理教室のような体験ができる、プラス食べれる場がある。体験はしなくても食べれる場があると、すごく魅力が出てくる。

交流拠点というのは、やはり「拠点」であって、三股というのは「地域」ですよね。拠点から回れるような感じにして、三股町にはいろんなお店があると思います。ほとんどがマイカーなので、地図を見て行けますよ、とか、毎日三股ツアーみたいなものがあれば、いまみなさんスマホを持っていらっしゃるの、スマホを見ながら行けると思う。

交流拠点を拠点として、体験もできたりとか、そうすることで、三股全部が浮き上がってくると思う。陶芸とか、季節ごとにいろんなものがあるので、老若男女、いろんな皆さんがいろんなことを体験できるようなものがあると良い。自分でつくれますよ、というようなものがあると、変わってくると思う。そうやって、三股を持ち上げ、浮上させて、プラスそれをどんどん情報発信していく。情報を得た人がまた情報を発信してくれる。

今、地方に移住してくる人が増えている。情報発信することで、三股にも移住しようとする人が増えると思う。

【渡邊会長】

いまいろんな意見が出ていますが、インターネットを使って情報発

信をしていくことが必要だと思います。

意見集約にもありますが、お店の広さはそんなに必要ない、情報発信ができればやっていけるということもあるようです。

【森委員】

殿岡改善センターは今後どうするのか。

もう少し生かせるのではないかと思う。立派な機械が入っている。私たちが要望して作っていただいたが、やはり利用者との意見交換をして、どのように生かすか考える必要があると思います。

生活改善センターを加工場として活用することもできる。自分たちの生活を改善するために活用する施設だと思うが、それを加工施設に作り変えることはできるのではないか。

新しい施設をつくるだけでなく、ある施設をうまく利用することも必要ではないかと思います。

【杉本委員】

全体的なこことして、交流拠点に導入する三つの機能ということで、各ビジョンが書かれていますが、これはどちらかという手段ではないかと思いますが、要はこの三つの機能を統合して、交流拠点をベースに、どんな三股町の未来を描くのか、共通のビジョンというものが必要ではないかと思います。

交流拠点ができた後の三股が、どんな姿になっていくのか、というものを描くためにも、機能ごとのビジョンをたてるのも良いんですが、共通するビジョンもしっかり立てる必要があると思います。

【事務局】

昨年の基本構想で基本となる考え方を盛り込んでいる。「健康と交流と賑わいの拠点づくり」というテーマを定めて事業に着手している。ターゲットとしては「町民の暮らし」としており、事業の目的は

「暮らしの一部分に、交流拠点での時間を取り入れることでみまたの暮らしに潤いと豊かさを与えること」としている。

このような考え方を土台として、基本計画では、拠点の完成イメージや将来像というものをしっかりと検討していきたいと考えている。

【原口委員】

いま事務局の説明を聞いて、私の考えと事務局の説明は同じであることが確認できました。

議論が、外から人を呼ぶ、ということになっていたが、あくまでも町民の方々がここに集って、暮らしやすいまちになる、ということがコンセプトではなかったかと思っていました。

町民の方々がここに集まれば、自然と色々な情報が発信されて、もちろん積極的な発信もしなくてはならないが、地元の方が喜んでいるところに、外からも人が目をつけて集まってくる。

まずは、町民の方々が暮らしやすい、ということが、三股町が目指しているところではないかと思う。

私は三股町に来るのは役場に来ることぐらいしかないが、五本松の場所はものすごく目立つ場所ではないかと思う。そういった意味で、あそこに拠点を造りたい、ということになったのだと思う。

【渡邊会長】

基本構想のなかの、基本となる考え方がもともになりますので、もちろんそこからの広がりが必要ですが、基本構想をベースに考えていくということで、お願いしたいと思います。

【細山田委員】

健康の部分が弱い気がしますが。

健康という部分をどのように考えているのか。

【事務局】

健康の部分を具体化する上で、屋内プールの検討を行ってきました。当初は、屋内プール整備によって健康増進を図るという考え方をメインにしていたのですが、検討の結果、意見交換の結果等を踏まえて、少し時間を掛けて検討していこう、という考え方に変わってきました。そのことによって、健康のメインと考えていた部分が、今回の計画の中では盛り込みきれない、ということも、確かにあります。

カルチャーセンターにいろいろな要素を盛り込むことも考えています。また、健康というものを、身体健康だけではなくて、精神的な面、心の健康という捉え方もしていきたいと考えています。いろいろな捉え方をしながら、健康の考え方を整理して行きたいと考えています。

②カルチャーセンターをメインとした交流拠点の考え方について

【細山田委員】

東原の児童館移転について、東原の子どもたちしか使えない、ということになるといけないと思う。みんな行きたいと思う。初めから、町全体の子どもたち向けの施設として考えていくべきだと思う。

【事務局】

利用者を限定せずに、子どもたちが使える場所、というかたちで整備していきたいと考えています。

【黒木委員】

屋内プールはネガティブな意見が多いと思うが、民間事業者とはどのような意見交換をされたのか。

【事務局】

整備は町で行うが、維持管理については、自主事業で稼いで賄う、ということでやれますか、というように聞いています。

その他、町からお願いしたいことは、小学校の水泳の指導で、これについては委託料を支払う想定です。子供たちの送迎も含めてやっていただく想定で意見交換しました。意見交換を行ったのは、近隣のスイミング事業者です。

【渡邊会長】

事前ヒアリングの意見を見ると、考え方としては面白い、という意見もある。町としては、今後どのように考えていくのか。

【事務局】

財政係との協議の中で、カルチャーセンターと屋内プールを同時に整備することは、町の財政状況を踏まえると、難しい、ということは確認しています。ということで、整備の時期は、ずらさなければならぬと考えています。

また、整備にかかる事業費のほかに、維持管理にかかる費用負担のこともあります。水泳授業の指導委託を考えていますが、これについては、これまでかかっていない費用ですので、新たに増えるコストということになります。一方で、かからなくなるコストもあります。例えば、水道代や薬品代など、各学校でかかっていたプールに掛かる費用は掛からなくなります。あるいは、各学校のプールの修繕や更新にかかる費用も、掛からなくなります。

維持管理について、どの程度町の負担が生じるか、ということについては、まだ詳細な試算ができていませんが、そのような町の財政に与える影響をしっかりと検討して判断する必要があると考えています。

そして、民間との連携で実現を目指していますので、連携してくれる民間が現れないと、もちろん実現できないので、相手探しもやる必要があると思います。

【渡邊会長】

屋内プールについては、もう難しいという判断になるのか。

【事務局】

全国的にも、小学校、中学校のプールを今後どう更新していくか、という問題が出ています。各学校にプールがあるというこの問題を「一学校一プール問題」と言うようですが、各学校のプールを更新せずに、市民プールを活用したり、民間のスイミングへの委託を行うという検討が行われています。

そのような流れはありますので、考え方としては良いのではないかと考えています。

しかしながら、財政負担の面をどう考えるのか。子どもたちの水泳ができる環境が良くなる、という面もありますので、行政としてどれぐらいの負担が可能なのかということ、もう少し時間を掛けて検討したいと考えています。

【杉本委員】

いま、屋内の機能について話されていますが、専門的に言えば、屋外をどう使うか、ということが非常に大事になってくる。松竹さんの意見の欄にも書かれている。最近、建築の世界では、屋内空間だけでなく、屋外空間をどう使うかというのが大事だ、というのがあがる。

先日、都城の道の駅のプロポーザルも審査に出席したが、やはりその時にも、例えば、非日常のマルシェをやるとか、屋内ではなく屋外をうまく使ってイベント的なものを作っていくときに、屋内と屋外のつながりというのをどう考えていくのか、ということがかなり話題に上がっている。ただ、このエリアで言えばみんな車で来るので、敷地全体の使い方としては、どうしても駐車場を削らなければいけなくな

ってくる。そうなるので、そのあたりのバランスというか、どう考えて設計に反映していくのか、設計上はかなり難しいというか、空間デザインとしては、そこの部分が求められる。

屋内もちろん大事だけれども、屋外をどう使っていくのかというのは、やはり検討していかなければならない。時代の流れなので。

当然、それと合わせて、サイン計画も大事になってくる。都城のマルマルのときも周辺のサイン計画もやっているが、サイン計画も含めて、地域のイメージというのは出来上がってしまう。それはある意味、屋内よりも屋外のほうがイメージを与えてしまうので、そのあたりをどのようにデザインしていくのか、ということも含めて、今後検討していただきたい。

【渡邊会長】

杉本委員の意見も踏まえて、今後の検討を行ってほしいと思います。その他なければ、これで協議事項を終わります。

7 その他

事務局より、スケジュールの説明

8 閉会

以上

以上のとおり、会議の議事録を記録し、これを証するため署名する。

令和 2 年 11 月 4 日

署名者 杉本 弘文

署名者 黒木 哲也

令和3年度 第1回 交流拠点施設整備事業 審議会 議事録

| | | | |
|-----|--|-----|---------------------|
| 日 時 | 令和3年7月26日(月) 10時00分～12時15分 | 場 所 | 三股町役場3階 議会全員協議会室 |
| 出席者 | 【委員】渡邊知昌氏、廣瀬吉弘氏、森秋生氏、藤野和雄氏、細山田三保子氏、平部隆典氏、杉本弘文氏、松竹昭彦氏、関西剛康氏 【事務局】山田室長、河野係長、清山、宮元 | | |
| 欠席者 | 西山繁敏氏 | | |

内 容

1 開会

只今より、令和3年度第1回交流拠点施設整備事業審議会を開会致します。

2 町長あいさつ

【木佐貫町長】

皆さま、おはようございます。お忙しい中、またコロナ禍ではありますがけれども、第1回交流拠点施設整備事業審議会にお集まりいただき有難うございます。オリンピックが開催されていますが、一方で緊急事態宣言下においてコロナ感染者も増えてきています。九州管内においても感染者が増えている状況で、多いところでは200人を超えています。注意喚起しながら、そして一定期間自粛しながら、一方で県内では経済を回す配慮も必要なことではないかと思っています。

本町の交流拠点については、基本構想をつくりまして、今、基本計画を策定していくところであり、この審議会では諮問をしているところでもあります。昨年度は第1回の審議会をしまして、今回が2回目となります。今年度、委員さんに新たに委嘱をお願いします宮崎銀行三股支店長の藤野さん、都城土木事務所長の平部さんの2名に加わっていただき、新たな体制でのお願いになります。よろしく申し上げます。

施設整備については、町民とともに考えるということで積み上げてきました。そして、基本計画の最終段階に入っています。今秋には方向づけをして、答申をしていただきたいと思います。五本松事業につ

きましては、駅前、役場、文化会館、そして五本松団地跡地と中心市街地のエリアの一角を占める大変重要な活性化の施設としての一部を担ってもらえたらと思っています。また商工会を中心に活性化協議会の中で、経済団体としての側面がありますが、色々と検討を重ねてきているところでございます。そういうこともあり、町としても、しっかりとした計画を作っていくことで、今、現在進んでいる状況でございます。

そういう中で、先日、大東建託の自治体住みやすさアンケート調査がございまして、その中で、いい部屋ネット『街の住こち&住みたい街ランキング 2021』の宮崎県版で、生活の利便性、交通の利便性、行政サービス、親しみやすさ、イメージ、静かさ、治安、物価家賃、自然環境などによって、住民が評価するランキングが発表されています。本町は住みやすさ2年連続1位を獲得しました。2位は宮崎市、3位は日向市、4位は都城市、5位は高鍋町ということでありました。大変、住み心地のよい町として評価が高いとされています。以前、アエラという週刊誌でも三股町は1番住み心地が良い街であるとの評価を受けています。またその評価を十分なものにするためにも五本松は大きな役割を担っており、持続可能なまちに繋がっていきたいと思っています。

ある程度の絵もだんだんと固まりつつあります。構想から具体的なものに、着手のところを目指さないと先に進みませんので、計画の中にしっかりと盛り込んでいただいて、そして、基本設計に入っていくという流れに進んでいきますので、今日は皆さん、ご意見をどうかよろしくお願い申し上げまして、開会にあたってのあいさつと致します。どうかよろしくお願い致します

3 会長あいさつ

【渡邊会長】

皆さん、おはようございます。交流拠点施設整備事業審議会では進

行役を務めさせていただきます。基本計画については、昨年10月の第1回審議会で町長から諮問をいただいております。実際は、基本計画としては2回目の審議会となります。コロナの関係で審議会は非常にのびのびとなってきて、3月末までにとりまとめができる予定だったみたいですが、また再スタートするというございます。

現状、オリンピックが始まりまして、非常に期待感がありますが、一方でコロナの感染拡大がひしひしと伝わってきている状況です。そういった中での審議会になります。なかなか進んでいない中でも、町民の皆さん、学生を中心とした若い人たちとの検討もなされています。それとこの審議会の中でもそれぞれの専門的な立場、組織的な立場でずっと今まで関わりを持ちながら今日まで進められてきているということでもあります。

今日は概要について説明を受ける訳ですが、ある程度、皆さまの意見が反映された中での今日の審議会にしていきたいと思っておりますので、それぞれ積極的な意見をいただきながらこの会を進めていきたいと思っております。お願い致します。

交流拠点施設は拠点として立派なところになるように皆さまのご協力を宜しくお願い致しまして、挨拶と致します。

4 議事録署名者の指名

【渡邊会長】

本日の審議会の議事録署名者に廣瀬委員と細山田委員を指名したいと思います。よろしく申し上げます。

5 会議成立の報告

【事務局】

条例の第7条第2項において「審議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。」と規定されています。本日は西山委員が欠席ですが、過半数の出席がありますので、会議が成立し

ていることをご報告します。

6 協議事項

①進捗状況の報告

- 1：プロジェクトチーム、幹事会の経過報告
- 2：生涯学習事業の検討について
- 3：五本松活性化推進協議会との連携について

【関西委員】

1つ確認なのですが、活性化協議会さんを作られています、協議会さんが今後、運営等に関わってくる可能性がかなり高くなるという考え方でいくのか、そのあたりの方向性はどうなっているのでしょうか。

【事務局】

まだ整備された後の施設の運営を一緒にやっていくということの検討までは進んでいませんが、それも1つ視野に入れながら意見交換をしていきたいと思っています。

【関西委員】

まだ検討段階であり、今後はその方向性も考えていくという段階ですよね。

【森委員】

今までにいろんな話を聞いてきて、これは夢のある交流拠点になるなと思っていたんですけど、今日の説明を聞いていて、背に腹は代えられないのかなと思いました。今、予算の中で、いろんな活動をやっている。そこを充実させていっている形であり、特別に新しい交流センターに人が集まってくるような、皆さんの今までいろんな意見がいっぱい出てきていますけれども、そういうものはどこに現れているのかなと。今の話を聞いていて私は疑問に感じました。もっと若い人が夢を持って交流センターに関わっていけるような場ができるのかなという不安を抱きました。

【渡邊会長】

この後に基本計画の概要報告がありますので、こういった流れになるのか、その辺も見極めながらまたご意見を頂ければと思います。

【藤野委員】

わがまちのことは我々でやるということですが、今は新しい分野を外からいろいろと吸収していかないと、若者がここを魅力的に感じてそこに行こうかなとは思わないのではないのでしょうか。私も森様と同じ意見をもったのですが、なぜそのような考えになったのか教えていただきたい。

【廣瀬委員】

協議会の会長という立場で関わらせていただいておりますが、わがまちのことはわがどんでやっどというのは、今の三股の現状というのは商店街が壊滅状態になっています。三股小学校の周りに昔は商店街がありました。それが35年かけて、高齢化とともに無くなってしまいました。生活を守るという上でも交流拠点の在り方はすごく大事であると私たちも認識させられました。商工業者の団体でやれるスペースがあれば一緒に連携してやっていきたいという想いが出てきて、提案をさせていただいていきたいと考えています。

拠点づくりは通過点であり、今から先、まだまだいろんなことが三股の中でやってはみたけれども、そのままの状態になっているということに我々も気付かされた部分があります。いろんな方を巻き込んで考えていかなければならないと思っています。今は、たたき台を作らないと話が進まないと思うので、そういう段階でこのスローガンを元に、誰かが考えて進めないと何も意見が出てこないから、このような形でやらせてもらっているということでご理解いただければと思います。

【事務局】

この事業を平成30年度から担当を始めてきていますが、当初から民間との連携を視野に検討していこうということで進めてきました。

ただし、町としては、地場産業が盛り上がり、発展するきっかけになるよう地元との連携を中心に考えてきております。そういった流れの中で廣瀬会長を中心とした独自のグループが立ち上がったということで皆さんと意見交換をしながら、三股町の地場産業の発展を共に考えていきたいと思いますということで進めてきています。

この考えでは当然、地元だけでは完結できるものではないと思っています。外から入ってくるものをシャットアウトするということではないです。あくまで、自分たちがやっていきたいことが中心にあって、そこに外部のノウハウやスキルなどを取り入れながら、自分たちが成長していけるような仕組みを作っていきたいという考え方で取り組んでいます。

【渡邊会長】

私も活性化協議会のサポーターとして入っておりまして、今のはちょっとした言葉のイメージでそのように捉えられたのかなと思います。わがまちのことはわがどんでやっどは、自分たちでやって外の人を排除しているように受け止められたのかなと思いますが、そうではなくて、中身を見てみると商業施設はありますが、その他の交流施設とかいろんな施設も含めて、その連携の中に入って行く為には商工事業者としてどうあるべきか、ということ念頭にしているところです。そして、必ずしも町内で完結するものでもありませんので、やはり外からいろんな人がきてもらえるような考え方を中心にして考えて、その中で自分たちができることをやりたいという考え方でやっています。なかなかこの事業に携わる商工事業者として今のところ7名で協議していますが、この広がりを商業事業者全体に広げていけると活性化に繋がっていくのではないかという考え方も1つあるものですから、協議会はこのような形で進めているところです。

【事務局】

基本構想、基本計画を策定するにあたって、町民ワークショップを開催させていただいています。その時に、町民の方からは他所から人を

持ってくるという施設ではなく、今の町民の暮らしの質を高めるための場所にしてほしいというご意見が多くありました。この考えだと立派な施設をつくるのではなくて、私たちの中でできる事を中心にやっていくということが考え方として大事なのかなと思っています。

この前、都農町と川南町に視察に行かせてもらったのですが、どちらの町もすごく活気があって、発展性がある、魅力があり、訪問しているいろんな人の話を聞いていてワクワク感がありました。話を聞いて思ったこととして、行政職員だけではなく、商工会職員、農協職員、漁協職員、観光協会職員の連携が取れており、都農町に関してはふるさと納税の納付額が高い。まずは地元の人たちが楽しんで連携してやっていくことが大事だと思います。他所から呼ぶことも大事だとは思いますが、そこの観点が必要なのではないかなと、実際に視察に行ってそこでまちおこしに成功されている地元の人たちの話を聞いていて感じたところでもあります。

②基本計画の概要説明

- 1：事業概要について
- 2：計画への町民WSの意見反映について
- 3：検討委員会での意見について

【廣瀬委員】

昨年の審議会ではなかなか見えなかったことが見えるようになってきたし、今の説明を聞いても、私たちの意見が言えるようになってきたなと感じています。町が考えている官民連携で時間をかけて作りあげてきました。実施できるように我々もできる限りのことはしていかなければならないと考えています。

少し心配なところがあって、あくまでもまだ基本計画ということではありますが、ここに関わるコンサルさんに色々と頼むにあたって何をどういう風に進めていく方がよいのかということの意見を聞ければと思っています。

【森委員】

廣瀬委員が言われたように、ある程度形が見えてきたように思います。商工事業に関しては、どんどん発展していただきたいという風に考えています。都城が商業地として、三股から車で行きやすくそちらに流れていきます。事業開始するまでに何年かありますので、それまでに商工会の人たちがまとまっていかなければならないと思います。

昔は道沿いに商店街があって、私たち女性部も道沿いに鉢を置いたりした運動もやってきてはいるんですが、やはりここを核として町民とのつながりをこの何年間の中でやってほしい。商工会の人たちは大変だと思うけれどもいろんな会議の中に誰か1人でも入り込んで町民を結びつけるためのことをやれないだろうかと考えていました。

町民教室については、私は郷土の料理をつくらせていただいていますので、郷土の料理もある程度皆さんに呼びかけて、三股に住む人たち誰もがつくれて、話せるようなそういうことをやっていただけるといいのかなと。ある程度の箱が出来そうなのでそういうこともできるなと考えていました。

【藤野委員】

収支計画はあるのでしょうか。

【事務局】

まだそこまでのものはないです。

【藤野委員】

銀行員のため、どうしてもそのような見方になりますが、20億円以上の事業費をかけて開発されるのであれば、その精査が重要になってくるのではないかと考えています。テナントを入れる決定時期はどうなっているのでしょうか。

先ほどの森さんのお話でもありましたが、都城に行く人を止めるとなると、相当なインパクトのある施設が無いとなかなか人が集まらない。先ほどスタバという意見がありましたが、確かにそのとおりであって、スタバに行く人はコーヒーを飲みたくて行っているのではなく

て、その空間が好きで行きたいと思っているはずです。そこに足止めするメンテナンスを持ってこないとなかなか収支計画は難しいだろうなと感じます。そのタイミングを早い段階で示していただきたいなと思います。

商工会さんとしては、都城市と重なる競合する事業が多くなるかと思いますが、商業施設についてはみんなでやっていくことで応援されるということでもいいですか。

【廣瀬委員】

今から基盤ができたうえで、お願いに上がって、こんな形にしたいという応援をしていただけるような形でと思っています。

【細山田委員】

基本構想が出来てからここまで来るのは本当に大変だったと思います。非常に良くできていると思います。まだ出来上がるまでに期間がありますので、若い人が起業できるような仕組みをそれまでにできれば、こういうことをやりたいんだという人にアドバイスをできるようにはできないだろうか。そういった人たちがここでできた時にお店として入れるか。お店までは難しくてもキッチンカーに似たような形で出店ができないか。そういったことができないと若い事業者が入るのは難しいのかなと思います。

既存のものになってしまうと、10年後、20年後、30年後の三股でどんどん商業というのは落ちていくと思うので、起業させる支援もここまでの間に足がかりができればいいのかなと思います。商業だけでなく、いろんなイベントができる講師であったり、そういった人たちを育成する施設。そうすると、講師ができるので、またそこを借りてイベントや教室をやろうという人が出てくる。人材育成していく三股。人が作っていくと思うので三股の町を。

スタバにいく、行きたい、そこで珈琲を飲みたい。若い人がそれに近いことをやってみたいとか、例えば私はおいしいハンバーグをつくりたいとか。そこに行けば食べられる。そういった目玉というか、新

しい物を作っていただけのような人たちをつくりあげる。そして、今ある商工会のお店で商工会でも開発する機会をつくり、この目玉商品にするとか。ここにいけば、それが食べられるよとか、これが買えるとか。そういったものがあるとすごくいいなと思いました。他のところからのニーズを取り入れて連携して、でも三股の人がやるとなれば、自分たちでやっているよということになるので、そういったものがあると非常に魅力あるまちづくりになるなと思います。

【渡邊会長】

商工会の中でも商工業者の創業塾とか後継者づくりとか、そういったものを事業として取り組んでいます。この拠点の中でそういうことをされる若い人たちが活躍できる場をつくっていかなければならないのかなという気がしています。

協議会の中でも、意見がいっぱい出ています。チャレンジができるもの、新しいことができるものにしていかないと、まちの商業は衰退していきますから、それによってまた町が活性化していくということになりますので、そういったことも含めて今検討しています。また、それに参加させていただきたいという風に思っています。

【関西委員】

色々と言いたいことはありますけれども、1つは文化交流と健康交流は公共サービスの分野になるかと思います。それと商業交流は別物だと思っていて、最近の傾向として、商業施設をいかにしっかりつくっていくかが町の活性化に繋がるので、そこをしっかりとやっていかなければならない。そういったところのコンセプト、要素をいろいろとあげてきて固まってきたのかなと。それをどうするのかというのは、5億円の借入金を本当に返済できるのかと皆さんにも聞いてみたい。そこはちょっと無謀ではないかと思います。

町もしっかりと考えないといけないとは思いますが、それは置いて、レイアウトを見ても検討はまだまだ未検討だと思うのは、今、公共サービスの計画配置は収益が出ないので、アクティビティ、快適

性を考えるなどの要素をつけて考えていくものですが、商業施設となってくると収益性を考えなければならないので、ロードショップの法則とか、先ほどスタバの話もありましたが、そこに行く付加価値をどうつけていくのか、商品価値をどう見出せるか。レイアウトの検討をやるときに、場所が大切だなと。それと駐車場の位置関係、周りが住宅街ですので、裏にある道路を生活道路として通してもいいのかなと。レイアウトをもう少し検討しないといけないのではないかと。本来であれば、構想段階で何パターンかの検討で良し悪しがどうかということがあって、それで内容を詰めていくというのが一般的であります。そのプロセスが抜けているなど。

都城の道の駅はコンペを出していますが、コンペ資料にもどういうレイアウトでだいたい考えているかの基本構想があって、その中でどういう風に詰めてきたかという資料がネット上にありますけど、その辺の基本的なことが抜けている。どういうコンセプトでどこを主軸においてレイアウトするかというのは非常に大事なことであって、建物の位置とかも大切なので、どちらを優先するのかという話になってくるので、その検討資料が必要ではないかと思いました。皆さんがおっしゃるようにやる気のある若者がどんどんこの三股で起業されることがこの拠点の1つの目的ですので、夢のある施設にできあがれば素晴らしいなと期待しています。

【松竹委員】

この審議会に呼んでいただけていることだけでも大変有難いことだと思っています。交流拠点整備がここ長年、町民の皆さんの気持ちやアイデアを盛り込んで、ここまでの方針が定まってきつつあることについては大変素晴らしいことだと思えますし、事務局のみなさんの努力が有ることだと思って尊敬していますが、現実にはこれを形にしなくてははいけません。構想したものを形にしていく段階を今から迎えるということを考えると私は少し心配なところがあります。あくまでも構想であって、具体的な細かいところは今から練っていくという

段階であるので、今日示されている仮の平面図や3Dのパース図はあくまでも仮だという前提でお話をさせていただきたい。

このマスターコンセプトの「五感に優しい居心地の良いまちのたまり場」は素晴らしいと思いますが、ここに描かれている絵がそれに向かっているか、みなさんどう感じられるのかと思います。芝生の広場はあるかもしれませんが、見ようによってはイオンやニトリモールのような大きな施設が出て、駐車場ができたね。手前には芝生があるよねと。私にはそういう見方にしか見えない。「五感に優しい居心地の良いまちのたまり場」にしたいというのであれば、そこのところを三股町としてこういう方向性を持ってデザインして行ってください、ということを示さないといけないかなという気がします。

1回目の審議会の時にも似たような案を示したのかもしれませんが、それをもって専門部会を作っていたのだと思います。ここにいる3人も専門部会に入っています。つい最近も会議がありましたけれども、その専門部会の果たす役割がまだ足りていないような気がします。せっかくの町の皆さんの気持ちとかこの事務局の皆さんが一生懸命まとめられたものが形にする段階で、三股町の気持ちがフィルターを通したときに、絵を書きとどけている方に全然伝わっていないのではないかと。思いをちゃんと伝えるときにどうしてもある程度こういう構想になっていますからこういう方向で考えてくださいという、あまり固定概念を与えずにやってもらうという方法もあるかもしれませんが、それがなかなか難しいから専門部会をつくって、ある程度三股町はこういう形のものをこういうデザインのものが欲しいということを示すということが大切ではないかと思っています。

今ここで書かれている絵が三股町の皆さんが望んでいるもの、理想としては形として描けていないけれども、気持ちの中で描いているものに何点くらい達しているかという、はっきり言って50点にも達していない、30点にも達していないような気がしてならない。本当

にこれができる良いのかと思ってしまう。事務局が悪いといっている訳ではない。この専門部会を十分に機能させていただいて、三股町としてほしいこんなコンセプトの建物がほしいですではなくて、検討委員会の14番の意見にありましたように、まちの中に四季が感じられる美しい景観があると良いと書いてあります。この概要説明書の中にも機能的な要素のデザイン、情緒的な要素のデザインコンセプトがありますが、三股町のまちを考えたときに、三股町の中で景観的なコンセプトであるとか、こういうものでないといけないんじゃないですかともう1つ謳うべきではないのかなと。

空間的デザインや居場所デザインで置き換えてあるのかもしれませんが、町の人があるところを見るわけですから町の中のこの自然に囲まれた三股町の中に、さすが三股町の中心にできる施設だねと言われる美しさとか安らぎを感じるとか、たまり場になるデザインとしてこういうものを求めたいというものを1つ掲げていただけたらなと思います。

審議会を十分活用させていただいて、コンサルさんが頑張ってくれて提案してくれるが、そうではないとやかましく言うかもしれませんが、三股町の人たちが望むこれじゃないかというものを具体的にこちらから強く意見を出して、皆さんが望んでいる形に近づける努力をしていただきたいなと思います。そのための努力を私たちは惜しまないはずですので、少なくとも私をつかっていただければありがたいなと思います。

日本の中でも住み心地の良い街という風に皆さんが認知していただける場所として新たに整備してみた方がいいが、出来上がって見たらイオンの小さいものだったとか、どっかにあるショッピングモールだったみたいにとっかしてみたようなものと同じじゃないかと思われるのは避けていただきたい。これは個人的な強い思いであり、私もお手伝いは考えますので、事務局の人たちもぜひ考えていただきたい。地域の人たちの後押しが一番大事だと思いますので是非頑張ってくださいと、切望しています。

【杉本委員】

私も松竹委員と同じような意見を思っていて、これだけ議論を重ねてきて、コンセプトやイメージを積みあげてきているのに最終的に出てきた図面等を見ると、何となく単に箱を新しくして既存施設を詰め込んでいこうかなというようなものにしか見えない。商業交流にみんなが来たくなるものを持ってきて、なおかつそこから人が溢れてきて、第2、3の目的で行動なりに連鎖していくイメージを作っていないと。商業交流施設は稼がなくてはならないので、その部分が不安というか心配しているところがあります。

気になるのはまちづくり会社についてで、この後説明があるかと思いますが、運営のすべてをまちづくり会社が担うのはすごく負担だなという印象があります。そこでどういうことが起きるのが非常に重要になってくるので、そこを担うのが町づくり会社になるのだと思いますが、どれだけ魅力的なことそこでできて、いろんな人が交流している姿をこの敷地の中で同時多発的に連鎖していくイメージを持たれているのかと思いますが、この図面等からはそのイメージは湧いてこないなので、すごくもやもやします。そこを検討していかなければならないなと思います。この敷地の中の機能をどうするかは重要ですが、中心市街地エリアのイメージを今後つくっていかなければならないと思います。今学生と一緒にやっている若者みらい会議で、三股のイメージは何？と聞いてもみんな何も無いと言われます。

この施設が若者とか小中学生を含め、今後ミライを担う子たちの三股のイメージになってくるんだろうなと感じます。エリアマネジメントを含めて、中心市街地でどういう暮らしができるのか、どういう魅力的なライフスタイルが生まれるのかがこれからの若者が三股に帰ってきたいと思うかにもつながってきますので、そこは気を使って検討していかなければならないなと思っていますところでは。

専門部会のメンバーとしても、松竹さんたちと一緒に頑張っていきたいと思っています。みんながよいイメージを持って、夢の描ける絵

を書いていなければならぬと僕自身も感じているので、ぜひ頑張っていきたいと思っています。

【平部委員】

審議会に出席するにあたって、三股町はどういう町なのか調べてみたときに、駅、役場、文化会館、図書館、体育館などの公共施設を中心にコンパクトに集約されていて、住みやすいまちではないのかなと思いました。冒頭に町長からのあいさつにもありましたように住みやすさが一番良い。三股町は人口減少社会が進む中でもなかなか進んでいない。どういう街なのかなと。傾向として20歳代は外に出ていき減っていますが、30歳代になると新たに三股町移り住みたいと思う人が多いんだろうなと感じています。まさに三股は子育て世代にやさしいまちである印象を受けます。今回の施設についてもこれまで生涯学習を中心とした高齢者の集える場所、そして子育て世代の方の集えるような場所として互いに交流ができればいいなと思っています。私が気にしているのは、いずれ町を離れるであろう若者、特に中高生の意見も参考にしてほしいなと思います。ワークショップにも参加されているかもしれませんが、杉本委員の意見にもありましたように、今後は若者が自信を持って三股出身ですと、また戻ってきたいと思えるような施設を検討して、若者にとっても居心地のよいたまり場になるように中高生の意見も取り入れながらまとまっていくといいのかなという風に感じたところです。

③まちづくり会社設立の検討について

【森委員】

この審議会は今回で終わりですか。

【渡邊会長】

このあとに事務局からスケジュールの説明があるかと思いますが、まだ数回残っています。

【森委員】

いろんなことが形のないまま。これからがいろんな意見を戦わせていく必要があると思います。もちろん町長の考えがもちろんあって、いろんな意見を皆さんいっています。時間がきました、はい終わり。先ほど専門家の人たちがおっしゃっていただいたことの中にも自分たちは協力していきたい。私も能力はないけれどもここに顔をつっこんだ。とことんものを遠慮なく言って、フリートークではないですけども、どんどん意見を戦わせてやっていかなければ、やっぱりいつもの行政というか、そのやり方だったら嫌ですよ。

協議会もいる中でこういうことを言うのはおかしいですが、やっぱり私たちは三股を活性化していくために、ある程度、畜産とか食の安全性とかそっちの方にも目を向けていただいて、商工会が本当に潤ってほしい。そうすることによって健康とかいろんなことが良くなる。だけれど、先ほど藤野支店長がおっしゃったようにここに出ているわけですから、皆さんの意見の中でも素晴らしい意見がいっぱい出てきているので、そういった人たちの意見を通すのは予算的なことや行政のいろんな問題がありますが、たまには協議する。

よかもんやにも最初、関わらせていただいて、へき地のFAXに何件か見つけて頑張りました。これもいつ終わったかがわからない。20年後に交流センターに商工業者が入って行って、活性化しているようなことを夢見ながらみなさんの意見を戦わせていきたい。理想は大きく持っています。

やっぱり脱皮しないと、先ほど言われたようにイオンモールのようなものに思う。期限は5年とかあるけれども、今どんどん意見を戦わせて、立派な方が言われることはやっぱり立派なことが多いんだけど、このメンバーはある程度、多くもなく少なくもない。だからどんどん意見を戦わせていくような場面がないといけないなど。できれば完成まで見届けられればいいなと思います。

行政の方でよくHPを見てくださいますと言われますが、どのくらいの人が見ているか知っていますか。うちの集落ではスマホを持ってやれ

ているのは私くらい。これは事実です。60代のお勤めしている人たちが多少パソコンを打てますが、すぐに忘れてしまう。HPを見ながらやっている人は何人いるでしょうかね。三股の回覧板でもHPを見てくださいと書いてあっても、見る人はどれだけのでしょうか。若い人は関心がない。年寄りはそのHPを見れない。そこを考えると、いろんな意見を戦わせていった方が頭の中で構想はできていて、皆さんに意見をもらっているのはちょっと失礼ではないかなと思います。

【渡邊会長】

先ほど事務局の方でも出ましたけれども、時間的に余裕をもって、いろんなことをしたいということです。

【森委員】

もう一つありました。これからの買い物は、運転のできなくなる人が多くなってくる。三股でもインターネットでの買い物が出始めている。それを考えたときにそこを取り継ぐようなお店はできないのか。そういったことを考えながらしないと。あそこに行って昼食を食べようとはなかなかならないのよね。だから私が言うのは、商工会の会員の人たちがいろんな組織の中に入り込んで意見を吸収して、一緒に衣食住をここでまずやりましょうよ。皆さんの口は私たちが養いますというくらいの、どうどうと私は商売人ですと言ってよいと思うのよね。そういった雰囲気のマチづくりをできるためには、もう少し戦わせた方がいいのかなと思います。

【事務局】

スケジュールについては、そういったご意見が多数を占めるのであれば、町長の方にまた協議結果をお伝えして、もちろん見直すこともあろうかと思っています。議会の方にも本日説明することにしてはいますが、議会は町民の代表者ということですので、そういった意見が多数を占めれば、当然すべてのスケジュールを見直すということもあるかと思っています。

【森委員】

先ほど、視察に行かれたという川南や都農はもともと商工会やJAがつながっています。もともとタイアップしている町です。だから上手くいっているでしょ。

【関西委員】

川南や都農が活性化していますが、これからの三股を考えたときに三股も活性化させなければならない。インターネットを使えない人もいらっしゃいますが、そういうことも含めて、この施設が新しい施設として活性化拠点として成功させなければいけないと思う。

おっしゃるように意見を戦わせて、みんなが参画できるような新たな構造をつかって、施設をつくり運営して経営なり活性化なりに繋げていければよいのであって、ただ基本的にこれはやばいなという形になってしまっているの、それをどう使いたいかというのをもっと議論していかないとなかなか現実路線としては。3年かかってここまでなので、森委員がおっしゃたように事業者となる方を入れ込んでディスカッションした方が賢明かなという風に思います。

④基本計画策定までのスケジュール

【渡邊会長】

先ほど色々意見が出ましたが、この資料だと専門部会が第1回で終わるようなスケジュールになっています。この審議会で言われたことをもう少し検討していただけないかと思います。

以上で、協議の方は終わりたいと思います。

7 その他

特になし

8 閉会

【事務局】

本日は長時間にわたりまして、委員の皆様には貴重なご意見をいた

だきまして、事務局としまして大変有難く思います。先ほど会長からお話がありましたとおり、専門部会の会議が重要な意味を持つてくると思います。20億円もの事業費を投じる重大なプロジェクトとなっています。多くの町民がこの施設には期待をしています。我々事務局としましてもそういう想いを受け止めて、審議会の皆様には答申をしていただくこととなります。まだまだ答申までには程遠いと思っております。今後また、こういった会議を持ちながら答申に向けて皆様方からの貴重なご意見をいただければと思っております。本日は長時間にわたりまして、ご協議をいただきまして誠に有難うございました。以上を持ちまして、本日の審議会を終わらせていただきたいと思います。

以上

以上のとおり、会議の議事録を記録し、これを証するため署名する。

令和 3 年 8 月 11 日

署名者 細山田 三保子 

署名者 廣瀬 吉弘 

令和3年度 第2回 交流拠点施設整備事業 審議会 議事録

| | | | |
|-----|--|-----|------------------|
| 日 時 | 令和3年9月27日(月) 10時00分～12時00分 | 場 所 | 三股町役場4階 第1会議室 |
| 出席者 | 【委員】 渡邊知昌氏、廣瀬吉弘氏、西山繁敏氏、森秋生氏、藤野和雄氏、細山田三保子氏、平部隆典氏、杉本弘文氏、松竹昭彦氏、関西剛康氏 【事務局】 山田室長、河野係長、清山、宮元 | | |
| 欠席者 | なし | | |

内 容

1 開会

只今から令和3年度第2回三股町交流拠点施設整備事業審議会を開会致します。

2 会長あいさつ

【渡邊会長】

皆さん、おはようございます。皆さまにはお忙しい中、全員の方が出席ということで、大変うれしく思います。

本事業の基本計画は3回目の審議会になります。令和2年度に1回、今年度に2回実施しています。前回7月26日に基本計画の概要について、皆さまにご審議していただきました。設計デザインの意見をいただいて、専門部会の方で更に検討していただきました。そして、それぞれの組織での検討を経て、今回、基本計画の素案ということで、事務局にまとめていただいています。

本日は基本計画案の説明を受けて、その内容を踏まえて、更に答申に向けたご意見を賜りたいという風に思っております。どうぞ、本日のご審議をよろしくお願いしたいと思います。

3 議事録署名者の指名

【渡邊会長】

本日の審議会の議事録署名者に杉本委員と藤野委員を指名したいと

思います。よろしくお願いいたします。

4 会議成立の報告

【事務局】

条例の第7条第2項におきまして「審議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。」と規定されております。本日は10名の全委員が出席していただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

5 協議事項

①進捗状況の報告

特にご意見なし。

②基本計画の素案について

【関西委員】

ここに書かれていることは庁内では共通意見になっているのですか。特に4つの機能を入れることについての合意形成はされているのですか。

【事務局】

この内容でプロジェクトチーム会議、幹事会、検討委員会、専門部会等で説明をさせていただきました。そこでのご意見等を踏まえて、この方向でいこうと合意形成を諮ってきたところであります。

【関西委員】

基本計画検討資料の10ページ以降に事業スキームの整理とありますが、まちづくり会社をどういう風な事業スキームでつくっていくかということは検討されているのでしょうか。そして、どういう方向性でやっていくかということはもう決まっているのでしょうか。これはまちづくり会社を官民連携でやるという話ですよね。民間の力を導入していく上で私が危惧するのは、例えばイオンが進出することでその

町が活性化するかということそうではなくて、結局は、イオンが進出することで、その町の商業が衰退していくという傾向があることは社会事例としてあります。そうなる可能性はないか。その辺が凄く心配です。昨日、延岡市に出張で行ったときに、駅前のエンクロスの中にスタバができて、スタバができたことによって高校生は喜びますが、しかし、スタバができたことで地域経済が吸われていくという背景があります。ここは非常に大切に、何のために事業をしているのかという本末転倒に陥らないかと危惧しています。もちろん、外部からの事業形態を持っている組織が入ってくることは悪くはないですが、その組織内容によっては、三股のお金がどんどん外に出ていく可能性があって、地域経済が衰退していく可能性があるのも、非常にここが大事になってきます。ここの説明をさらっとされたので心配ではあります。いろいろと細かいところではありますが、今後、まちづくり会社をどう整備していくのか。非常に短期間で決まっていく内容になっていますので、そこが質問として訊きたいところでもあります。

【事務局】

事業スキームについては、まだ概ねこの形かなというものはございません。考え方としましては、基本計画本編の33ページに書いてありますが、あくまでも地域密着でやっていくんだと。地場の産業振興の発展をやっていくという方針はしっかり出していこうと思っています。参考として、ここにもいくつかの事例を上げています。別綴の13ページをお開きください。事業の性質は違いますが、⑤佐賀県上峰町の事例になります。こちらは行政が土地を出資して、事業者はお金を出資して、合同会社を立ち上げています。今後、検討していく中には、五本松という土地を現物として町は出資して、そこに地元事業者の参加をいただいて、町と一緒に法人を立ち上げていくことをこれから検討していきたいと思っているのが1つあります。或いは、事業の規模は違うんですけども、15ページの上の方にあります④岩手県紫波町のオガールプロジェクトというとても有名な事例があります。

この事例ではまちづくり会社が2つ出てきます。町がつくったまちづくり会社と事業を行うまちづくり事業会社の2段階で作られたりしています。まずは町の方でこの事業を進めるための母体となるまちづくり会社を立ち上げ、そのまちづくり会社が中心となって地元と一緒に具体的な事業について検討していくという形も想定をしております。いずれにしても、今の段階ではまだどの方向でいこうということは明確に決まってはいませんが、方針としてはあくまでも地元の産業発展、振興に寄与することを目指すということは明示していきたいと思っています。

【松竹委員】

基本計画素案の18ページになります。単純な語句の話になりますが、⑨地域コミュニティとはどんなだろうなと思って見ていったときに、1行目に「加入率の低下」とありました。下を読めばこういうことかと分かりました。加入率の低下とは何の低下なのだろうかなと思っていました。端的に言うと自治会の加入率の低下なのかなという察しがつきましたが、ここにもそのことが書かれてあるといいなと思いました。

もう1つ、前回の会議でもお話をしましたし、他の会議でも議論してきました。その前回の会議で見せていただいた素案からするといういろんな会議を経て、三股町としてどうやりたいんだな、どういう風に整備されたり、建ったものができるという姿が、今回、絵としてももちろん見えてきましたし、書類としても充実してきているんじゃないかなと私は感じます。そのご努力は大変だっただろうなとは思いますが、皆さんが大切にされていることの1つに、町民の皆さんと一緒に模索して、つくって、維持していくスタイルを考えておられるにあたって、これまでにいろんな経緯がありましたので、施設の整備の仕方などを含め、いろいろと町民ワークショップから変わってきているところがありますので、あらかた方向性が定まってきたところで、また町民の皆さんにプレゼンすることは当然に行われるべきだと思いま

す。それは非常に大切なことです。みんなで考えてつくって、維持していくことをやっていくためにはとても大切なことですので、そのプログラムをちゃんとこの中に盛り込んでいただきたいと思います。それと説明会をするときに、私がその説明会に行った町民の1人だとすると、この計画書をくまなく読めば、なるほどなあと分かるのかもしれませんが、どこが凄いのかとなったときにこれを全て読めば分かるよ、というのは正直、厳しいです。私がその説明会に行ったときに自分だったら、こう質問するんじゃないかと。結局、今回整備される五本松の特徴はこういうところで、どういうところに魅力があるのかというところを簡単に言ってくださいというのは失礼かもしれませんが、まとめるという作業はきっと大切で、こういうところが町民にとって誇らしげに思ってもらえる一番に大切なことだったり、重要なポイントになったりするかもしれません。そういう質問が出ないとは思いますが、皆さんが町民に伝えたいこととして、ここにはこういう特徴がありますよ、こういう魅力があるんですよと話をされるとすれば、どう話をされるかなと興味が湧きました。そういうところをまとめておられるといいかなと思いました。というのは、五本松を整備していく大きな意味のコンセプトは「五感に優しい」というのがありますが、できあがっていくもの自体に、特に建物には皆さん興味があります。建物はどういうコンセプトで作られたのですかということは必ず出てくる話です。五本松の整備は町民にとってこういうイメージやコンセプトですが、実際につくられた広場や建物はそれを受けて、それが建物につながっていくはずなので、町民の皆さんや私たちにたくさんの資料に含まれている魅力を一言で言うと、こういうところが素敵な町で、こういう特徴にしていきたいなと説明できるとよいと感じました。もしかしたら、この資料のどこかにそのフレーズがあって、今回の五本松のこの整備案をまとめるにあたって、訴えたいところもあるのではないかなと感じましたので、そこのところを整理し、準備しておかれた方がよいのではないかなと思いました。漠然とした話で

申し訳ないですが、素人がこれを読んでもなかなか分からないので、町民が自信を持って三股町の自慢ができるように、三股町のここが凄いと言えるように、素敵だと言えるようになることが大切ではないかなと思います。

【事務局】

パブリックコメントの期間中にそういった場を設けていこうかと思っています。その際には概要版をつくって説明していこうかと思っています。今頂いたご意見も踏まえて、分かりやすいフレーズでこんな場所になるんだなと伝わるようにつくっていきたいと思いました。

【廣瀬委員】

基本計画検討資料で施設の配置計画の比較を6パターン載せてありますが、この中から検討して決めていくイメージになってしまわないかと感じます。ここについては、協議会としても提案をしてきている以上、メンバーからもっとこうしてほしいという要望もあるような気がします。今後、どうなるのかなと思います。

【事務局】

確かにそのようなことが懸念されるというご意見は他からも頂いております。これはあくまでも検討を行った時のパターンとして示そうとは思いますが、そうは言ってもこれを出してしまうとこのどれかになるのかなと思っています。今のところ、これは本編ではなく、資料として、表に出すのか出さないのかは、町の内部でも検討した方がよいのではないかという意見は出ています。

【西山委員】

町民ワークショップ以来、長い期間、話し合いをやってきましたが、先ほどおっしゃったようにかなり具体的になってきたのではないかと思います。そういう意味でも専門家や事業者との連携をしっかりとっていただき、より良いものをつくりあげてほしいなという風に感じています。

【森委員】

ワークショップから始まり、よくここまでまとめられたなと思いましたが、後半部の説明を聞いていると、どこをどうしたらいいのか、あまりにも求めるものが多いような気がします。一体何をしようとしているのかと疑問に思いました。皆さんから特徴のあるものという話が出てきておりますが、そこについては他の市町村にはなりません、先日、女団連でえびの市の資料館に行ってまちの歴史を知ることができて非常に勉強になりました。三股町は歴史のある文教のまちですので、そういった場も置けるといいなと思いました。これからまた木を植えたり花を植えたりしていくと書かれていますが、三股のシンボルの木はイチヨウですよね。しかし、これまで、三股町は枯れ葉が散らかるからといって学校に植えている木を切ってきています。三股の文化や伝統を引き継ぐ上でも枯れ葉を掃くことはいいことだと、夫が言っていました。古いものにもきっと先々は大事だったと思えるものがあるんじゃないかなと思います。三股の今ある価値を活かせるようなものがほしい。

それと余談にはなりますが、私たちは農村の女性指導者としてこれまで活動してきました。活動の拠点である殿岡生活改善センターは農村の付加価値を高めるために建てられた建物です。ところが今、町外の人でも利用できるようになってはいますが、使う人が少なくなってきたから、またつくるものが味噌やめんつゆなど特定のものしかないから、じゃあ無くそうかというのではなくて、そこに職員を配置して、しっかりと歴史や文化を継承していくことも大切ではないかと思いません。職員を置くとコストがかかる。そうになってしまえば何のためにあそこをつくったのだろうかとなる。これまでに私たちはJAの女性部長たちと話をし、民間事業者にも施設の貸出ができるようにしてくださいとあちこちで言っている。職員を置くとコストがかかるし、その職員に学習させるためにもお金が要る。これまで良い機械はどんどん入れていただいているが、そういった細部についてはやってくれていない。何のための施設なのか。利用者の目的に沿ったこと

がやれているか。それが活かされていないのではないか。そのことを考えた時に、今度もこの計画に色々書いてありますよね。本当にそんなことをするか。例えば食事のマナーと書いてありますが、そのようなことも必要ではあるけれども、そういうことがこの表に出てくるのではなくて、もっと違う観点で、ずっと講師を絶やさない、導いてくれる人を絶やさないというシステムを書いておかないと、何のためにつくったのかとなる。そうしないとできたときはいいかもしれないけれど、その後は誰が何のためにそれを求めてつくったかのかが分からないようになる。そのことも入れてもらえたらいいのかなと思います。せっかくお金をかけて立派な施設をつくったはいいが、人を育てるということをしてきていないから、結局、何のためにつくった施設なのか、この先に人が活かされる施設になるのか、分からないです。使いやすくとは書かれているが、今は分かってても次の世代の人たちにとってどうかは分からない。みんなが使いたいときに使えるような形になるよう考えてもらいたいなと思います。

【平部委員】

前はハード整備をして、箱モノをつくって終わりというのはどうなのだろうと思っていましたが、今回、短いスケジュールの中で色々検討されてきているように思います。32ページにこの事業の整備イメージがありますが、これを見ると狭い敷地に駐車場をとると広場面積が少なくなる。でも駐車場は必要だしと思っていましたが、このイメージ図では2階層の造りになっていることで、その辺の課題がクリアされて良くなっており、行ってみたいなと感じました。この絵を見ると健康のためにまちの中を歩きましょうという中で、どこからでも中に入れるようなそんな空間になっていると「五感で感じる」が活きてくるのかなと思います。いろいろと検討していく中でこれが変わっていくとは思いますが、皆さんが行きたくなるような、また地元の人自慢できるようなものになっていけばいいなと思っています。事業費の関係もありますので、どこまでできるのかなというところはあ

ります。また商業施設にどういうものを入れていくかということもありますが、まちづくり会社がいろんな学び、子ども子育て、健康、行政・民間のイベント、展示会など、常に人が集まるような企画をして、五感に優しい場になるといいと思います。色々な企画をしていくとまた商売人も集まるし、賑わいも生まれてくるのではないかという感じがしています。私は土木事務所長ですので、まだ先の話にはなりますが、この事業と併せて周辺の道路整備など協力していきたいなと思っています。

【藤野委員】

ご苦労されてまとめられた跡を感じますが、イメージとしてバラ色の計画というか、本当に全て上手くいくのかなという計画に感じます。前回、収支計画の話をしていただきましたが、やはりこの20億円をかけて7千坪を整備する計画が持続していくためには、資金繰りがどうなのかというのは大前提ではないかと思います。その中で、官民連携の考え方として、「実績ノウハウを持った専門的な事業者の意見が必要です。」とあります。まさにそのとおりだと思います。そういった事業者選定をどうされるのかとか、そこに対する公平性だったりを慎重に考えていただけないかなと思います。

【細山田委員】

皆さんとは全然違う観点で見えていました。そんなことは全部入っていますよと言われるかもしれませんが、私は宮崎県環境保全アドバイザーを取りました。年間どの季節にも関係なく、災害が起こっています。それも壊滅的な災害が起こって、土砂崩れや水害で浸水、冠水してしまうので、この中に防災的な部分をどう入れて、つくられるのが、見えてこない。11ページの右下に防災的な言葉が出てはいますが、是非、町民の命を守る機能をコンセプトの中に入れてほしいと思っています。何かあった時にあそこにいけばいいねと思えるような機能は入れてもらいたい。災害は待つてはくれない。気候変動による地球温暖化でいつくるかわからない。台風だけでなく、雨もゲリラ豪

雨で一瞬の間に水没する。三股はそこまでひどい災害はないけれどもこの先無いとは限らない。県内で最近起こった地区の人たちはこんなことは生まれてはじめてのことだ、こんなことが起こるとは思わなかったと皆さん一様におっしゃる。これだけのものができるのであれば、ここは安全なんだよということを表に出してもらいたい。是非、町民の命を守る機能もあるんだというところを出してもらいたいと思います。

【松竹委員】

先程、意見を述べさせてので、特にございません。是非、自慢できる施設をつくっていただきたいと思います。以上です。

【杉本委員】

かなりボリューム満点というか、よくまとめられたなと思います。ただ、各委員の方からの話にもありましたように、私自身も基本計画素案の段階で機能がたくさん盛り込まれていて、これが本当にできるのであれば夢があっていいなと思いますが、本当に全部できるのかなと思うと懸念としています。というのは、たぶんこの機能を全部含めた箱はできるかと思いますが、この基本計画の内容はソフト事業的なことがかなり載っていて、なおかつそれを担うのが一言、資料の最後の方に「この管理運営はまちづくり会社が行うことを想定しています。」の一言で締めくくられています。そのまちづくり会社に対する負担というか、重圧というか、このプランを見たらものすごいというのが印象としてあります。果たして、このまちづくり会社、しかも町が100%出資というので上手く回るのだろうかという懸念があります。やはりこれからは都市経営の観点で考えていかなければならない時代ではあるので、関西先生も最初の方でおっしゃっていましたが、どこかの事業所を入れて、その会社だけが利益を集中してしまうと今までの期待感が不信感に変わってしまう。そうなるのが一番怖いなと思いますので、その辺のソフト事業的な部分の連携を綿密にやる必要性を感じます。地域の事業者であったとしても特定の事業

者だけが儲かるだけになってしまえば、協力者はどんどん減っていくので、町内事業者との連携の部分は今の内から密にやっていただいた方がいいんだろうなというのをものすごくこの計画をみて感じました。そこの部分を同時進行でやっていくのは非常に大変だと思いますが、ハードとソフトの両方を同時進行的に進めていかないと、今後リスクが出てくるのではないかなと感じます。その点をしっかりお願いしたいなと思います。

【関西委員】

公共事業の機能性は図書館や公民館など限定されてつくられる中において、まちづくり会社が利益を生むものであってもどうかとは思いますが、今回の場合は、町民ワークショップから始まって、複合的施設をつくりあげるのはなかなか全国を見ても事例の無い案件かなと思います。それをここまでまとめていただいたのは大変だったかなと思います。三股町として成功させるためには1点1点、細かなところまで配慮していかないといけない。例えば、空間をどういう風に扱うのか。ちょっとした施設の在り方、学習施設を考える場合においても高校生や中学生を対象とした場合に都城の図書館では、夜9時まで勉強したいとか、休日も空けてほしいとかいろいろな要望があります。そういう細かな要望をくみ取って、どのように空間の運営システムをつくるかという作業は町民ニーズに跳ね返ってくる。そういったところも次の作業では必要ですし、藤野委員の話にもありましたように収支バランスをどのようにとっていくのか、ということは今後大切になってくる話です。非常に細かな気配りが必要な事業になってくると思います。しかし、これを超えることによって、三股町は大きく成長できる可能性があります。杉本先生からは都市経営のお話がありましたが、これから先いろんなスキルを超えて進歩していかなければ、都市経営も地域経済も発展しないと思います。これを1つの布石として、もっと議論を重ねることが重要になります。時間の関係もあるかと思いますが、出来上がった後も事業ベースを含めて、ずっとどうい

う風に変えていけるか。それだけ考えても未来の背景で変わってくる。町と官民がどれだけ連携してやっていけるのよって、三股町の発展度合いが変わってくるかと思います。さくばらんに問題があるところは、検討に検討を重ね、失敗も明確に指摘して、またそれを改善していく PDCA サイクルで回していく形にしていきたいなと思います。前回の資料よりだいぶ進歩してきたと思いますが、この後も真摯に検討して真摯に進めてもらいたいなと思います。

【渡邊会長】

色々なものを取り入れてまとめていくのは大変だっただろうなと思います。ただ、これを今後、事業として進めていくには先程から先生方が言われたことが課題として出てくるのではないかなと思います。特にまちづくり会社をつくるということに対して、私は商工会事務局の人間ですけれども、週に1回、活性化推進協議会でまちづくり会社設立や出資の問題はどうするかなど、含めて議論しているところです。今後、これが実現していく方向に向かう時に、官民連携の関わり方が全く先が見えない状態です。まちづくり会社をつくることは経験のないことですので、時間をかけてじっくりといろんな方面から検討していただきたいなと思います。いろんなアドバイザーを使いながら、その中で地域密着型の連携をどのようにしてやっていくのか。関西先生が言われましたように、大手の資本力のある企業が進出してくると不安を感じます。その資本力のある企業が全ての経済を吸っていく形になっていく。地元の商工業者のところに回ってきていない。商工業者がこの事業に参加していくことが非常に大切になってきます。五本松整備事業を機にしてなんとか商工業の在り方や活性化のために町と連携を取りながら一緒に進めていきたいと思っています。この時点では、具体性が無いわけですから、今後、これを詰めていって、先ほど言われたようにこの機能の中で淘汰すべきものもあると思います。資本力、人材の面を含めてできないことも出てくるかと思いません。その辺はお互いに連携してよいものができるようにやっていき

いなと考えています。

③基本計画策定までのスケジュール

特にご意見なし。

④答申について

【事務局】

先程、細山田委員から災害対策、対応の話がありましたが、ここについては防災計画との関連も出てきますが、そういう視点も必要だと思います。

【渡邊会長】

この基本計画の中には防災関係のことは入れていないのですか。

【事務局】

11ページで少し触れているぐらいしか入っていない状態ですので、そこを補完する意味で付帯意見として入れて検討したいと思います。

【渡邊会長】

それ以外に付帯意見として入れておいた方が良いものはございませんか。急に言われても意見が出しにくいかと思しますので、次回のお機会までに追加する内容があれば考えて追加する形でよいでしょうか。

【事務局】

次回までの間に、個別で訪問させていただきたいと思しますので、その時にご意見をいただければと思います。

【渡邊会長】

そういったことでよろしいでしょうか。以上で今日の審議は全て終わったところでございます。あとは事務局の方でお願いします。

6 その他

特にご意見なし。

7 閉会

以上のとおり、会議の議事録を記録し、これを証するため署名する。

令和3年11月2日

署名者 藤野 和雄 

署名者 杉本 弘文 

令和3年度 第3回 交流拠点施設整備事業 審議会 議事録

| | | | |
|-----|--|-----|------------------|
| 日 時 | 令和3年11月17日(水) 13時30分～15時00分 | 場 所 | 三股町役場4階 第2会議室 |
| 出席者 | 【委員】渡邊知昌氏、廣瀬吉弘氏、森秋生氏、藤野和雄氏、細山田三保子氏、平部隆典氏、松竹昭彦氏 【事務局】山田室長、渡邊室長補佐、河野係長、清山氏、宮元 | | |
| 欠席者 | 西山繁敏氏、杉本弘文氏、関西剛康氏 | | |

1 開会

只今より令和3年度第3回三股町交流拠点施設整備事業審議会を開会致します。

2 会長あいさつ

【渡邊会長】

委員の皆さん、お忙しい中、ご出席いただきまして大変ご苦勞様でございます。もう3回目の審議会ということになっております。前回は、基本計画の素案について協議をしてお承認をいただいたところでございます。その際に委員の皆さんからいろんな意見が出されたところでございますが、その後、その経過も踏まえながら、議会との協議の場やパブリックコメントの実施、内部検討、基本計画の周知のための概要版の作成などがなされているという風にお聞きしております。

また、審議会の委員の皆さんには、個別にこの基本計画案の答申について、協議をさせていただいたところでございます。この審議会も終盤になっております。皆さんには、大変ご協力を頂いております。

本日は、最後まで審議していただき、また答申に向けたご意見も賜りたいと思っております。ご審議のほど、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

3 議事録署名者の指名

【渡邊会長】

本日の審議会の議事録署名者に森委員と平部委員を指名したいと思
います。どうぞよろしくお願いします。

4 会議成立の報告

【事務局】

設置条例の第7条第2項におきまして「審議会は、委員の過半数
の出席がなければ、会議を開くことができない。」と規定されてお
ります。本日は関西委員、杉本委員、西山委員の3人の委員が欠席とい
うことですが、過半数の出席がありますので、会議が成立しているこ
とをご報告いたします。

5 協議事項

①経過報告

②基本計画（案）及び概要版について

③答申について

【渡邊会長】

この基本計画については前回に素案が出されて、そこから修正した
ところの説明があったところです。あと、それに対する概要版という
ことで説明がありました。これについて、皆さんからご意見をいただ
きたいと思えますけれども、少し前のことも思い出していただいて、
今、考えておられることを出していただけるとありがたいと思いま
す。よろしいでしょうか。皆さんからご意見をいただければと思いま
す。

【森委員】

いきなりは難しいですね。

【渡邊会長】

なかなか整理がついていないかもしれませんね。

【森委員】

これまでにたくさんの意見が出てきましたよね。今までいろんな町

民の意見を聞かれてきたと思いますが、よくまとめられたなあという風に感じました。さすがだなと思います。きっと泣いただろうなと思います。いろんなことを検討して企画しながらやってきたけれども、1つのことだけではなく幅広いことを捉えながらこれまで頑張ってもらったでしょう。すごいなとしか出でこない。私の頭を超えています。素晴らしいと思います。以上です。

【渡邊会長】

ここまで作り上げることは大変だっただろうと思います。いろんな意見をまとめて、しかもそれを集約しながらある程度の形にまとめていくのは大変だっただろうなと思います。そして、これからも大変だろうと思います。

【細山田委員】

検討委員会や審議会などを開催すればするほど、どんどん逆に意見が出てきて、意見が膨れ上がってきているような感じがすごくしていて、これから現実的にどのような形に作り上げていくか。モノだけではなくて、人が行ういろんなイベントなどのコトをこれから厳選しながら進めていなければならぬと思います。そこがこれから一番大事になってくるんじゃないかなと思います。要望を聞けば聞くほど、皆さん自分の要望を言いたい。私もそうですけれども、皆さん自分の意見を出したくなるので。ただし限界は絶対にあって、そこを踏まえながらまずはこの建設をどう担っていくかだと思います。イメージの絵で見えてきたところもあって、こういったものをこれから先、作り上げていくためには建設の方々、土木の方々など、各分野の専門的な方の意見がこれから先はまず一番の意見になってくるだろうなと思います。予算の中でどれだけできるか、どれだけ収入につながるものを作り出せていけるか、人材育成ができるかが大切ではないかと思います。すみません、逆に漠然としてきました。

【渡邊会長】

いろんな意見をこの会を通じて聞いてきていますと、新たな意見と

かいろんなものが出てきて、引き出しが非常に広がっているような感じがして、それをいかに効果的に活用できるのかなという気がします。そこが、今後、難しいところかなという風に感じました。

【藤野委員】

いろんな意見がありましたけれども、最終的にこれができあがって、町民さんの不満だったりが出てくるのは、おそらくそれが上手くいっているか、上手くいっていないかだと思います。例えば、何かつくっても A さんは絶賛すれば、B さんはけちょんけちょんに言う。そういうことは必ずあると思います。では、そのときにそれが妥当であったかどうかというのは、その事業自体が単体できちんと収益を出して、持続可能かどうかだと思います。新たにつくったけれども上手く行かなかった。新たに町からの財政出動がなければやっていけないということになると、ではその責任を誰が取るのかという意見になると思うので、思うのはついている資料の 2 番か 4 番のところをしっかりとした収支計画を出して、それをいろんな方からモニタリングして、問題点を常に洗い出すとか、収支のところに関するコメントがあった方がよいのではないかという風に思います。

【渡邊会長】

採算が取れる施設かどうかは非常に大切なことだと思います。今後、これが実際に進む段階で、その辺がきちんと明らかになって、藤野委員が言われるような進み方にしてほしいと思いますね。

【藤野委員】

コストを抑えるという表現がありましたが、ではコストを押さえればいいのかという話ではなくて、高くてもそれがきちんと回るような計画であれば、少々コストがかかっても私は良いと思っています。できた施設の機能がしっかりと発揮されて、単体できちんと収益があげられる計画であるかどうか。それに客観性があるかどうかということが求められると思います。

【渡邊会長】

分かりました。

【平部委員】

私の感想としましては、今回の基本計画でイメージ的なものが皆さん共有できたので、また新たな要望も増えてきているのかなと感じています。その中で、これから建物の基本計画をされていくんですけども、最終的には三股町の皆さんが親しみを持って集まるようなそういう設計に入って行くのかなと思います。できた後の運営について、出てきた要望を見るとイベントなどのことが入っていると思います。施設ができたらどこかの団体なりがここを運営していくことになります。計画の中にも『協働』という言葉が入っていますので、そこを運営する方が地元でいろんな活動をする方や住民を結びつけて、この出来上がった施設を上手く活用していけるように、ハード整備と併せて、将来の運営について、ソフトと言っているのかもしれませんが、そちらの準備も併せて供用開始までに並行して進めていくといいのかなという風に思いました。いろんな要望をハードと将来のソフトとに上手く分けて整備していくといいのかなという風に思ったところです。

【渡邊会長】

ハード面、ソフト面を上手く整理して整備するというお話がありました。そこはこれからの課題であろうかと思えます。

【松竹委員】

感想を言う前にお聞きしますが、ワークショップに参加された方や自治会の皆さんに説明して意見をもらうときに見てもらった資料は、こういう難しい資料ですか、それともこの概要版の方ですか。

【事務局】

概要版を用いて行いました。

【松竹委員】

夢がたくさん盛り込んだ絵なので皆さんのイメージが膨らんだのだと思います。たくさん皆さんからご意見が出たということは、別に批

判的なことではなくて、それだけ期待があるということだと思えます。たぶん期待も何もしていないようなものができるのであれば、普通は意見も言わないです。これだけ意見が出て、希望が出たのはここが出来上がった後のことに凄い期待感がある現れだと思えます。ここまでとても大変だったと思えます。この資料をまとめられたのを見てもすごく大変だっただろうとは思いますが、これから実現に向けてここに関わってきた人たちの想いや期待感を裏切らないでいただきたいと思えます。これから皆さんが納得できるようなものに近づいていけるようになればいいなと思えます。その時の足元の考え方について、大層な言い方はできませんけれども、平部委員がおっしゃったようなことが大切になってくると思えます。施設ができあがって半分、残り半分は運営ということになるんだろうと思えますけれども、このような説明会に参加された人は施設が出来上がったときには完全なものできていて、すぐにパッと夢が広がるような世界を考えてしまいがちですよね。この資料の中にずっとあるように『町民とともに作りあげていくんだ。』だからこの施設は完成したときにはたぶん未熟なところがあるんだと思えますけれども、それを皆さんで年月をかけて作りあげていくんだ。だから施設も使いづらいところがあれば、マイナーチェンジもできるし、利用の仕方も皆さんで考えていきましょうという、そういう未来を見据えたスタンスを忘れないで計画を進めていただければ有り難いなという風に思いました。

それともう1つ忘れていました。前回の審議会での意見として出ていたかと思えますが、基本計画を一部修正されたという説明の中に、修正した内容として入っていなかったように思うこととして、防災的な観点の話があったかと思えます。この計画書を細かく目を通していなかったため、前回の審議会で出された意見が網羅されているのか、そこは大丈夫なんですかね。

【事務局】

防災に関しましては、計画書本編の変更はしていませんけれども、

この後に説明させていただきます答申の付帯意見のところに防災的な内容を入れさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【松竹委員】

分かりました。最後に1つだけ聞かせてください。ワークショップに参加された人や地元の人から出たお話は計画を進めていく中で妥当である、妥当でないということを判断することは難しいとは思いますが、意見として、こういう内容が出ましたという説明はされましたが、それを受けて事務局の皆さんやこれをやろうとしているスタッフの皆さんが、これは大事だなとか、ここはうっかりしていたなとか、改めて大事にしたいなとかいう意見があったら教えていただけますか。今の経過説明ではそういったところが伝わらなかったもので、進めていく中で町民の皆さんやワークショップで出された意見を聞いて、こう感じたというところがありましたらお話を聞かせてください。以上です。

【事務局】

今回行いました意見交換の場は小グループに分けて、ざっくりばらんな雰囲気やってみようということで、そういった形式で行いました。なるべく発言しやすい雰囲気を作ろうということでやってみました。そうすると皆さんいろんなことを考えていらっしやって、いろんな声が聞けたなと言うことで見えてきたところがあります。そして、その中で町からの発信がなかなか十分でないというお声もいただきました。そこが確かに分かってはいながらも少ないスタッフでもっと情報の発信の仕方とか意見交換の場を持つというのは数とか頻度とかを増やすのはなかなか難しい面もあるなと感じています。そこをどのようにちゃんと町からの情報が出されていて、キャッチしようと思えばキャッチできるという関係性に今後していくことができるか、そこは少しやり方を工夫していかないと、ただ単に回数を増やせばいいというわけではなそうな気がしています。町民さんとの対話の仕方をもう1つレベルをあげていかないといけないのかなという気が今回感じた

ところでした。

【松竹委員】

ありがとうございます。

【廣瀬委員】

最初に発言の順番が回ってこなくて良かったなと思いました。2年間、この審議会に関わらせていただいて、最初の方は何が何だかわからないような状況でありましたが、だんだんと積み上げられてようやくここまできました。皆さんが言われるように、意見が出るようになったというのは形が見えるようになってきたからだと思います。意見の内容も具体的なものが多くなったように思います。

私は商工会の長として、ここに出席させて頂いておりますが、先程からいろんな意見が出ていますけれども、計画をつくるまでにこういう意見をもとにつくられた。そして、今度はできてからのことを考えると、非常に重い責任を感じながら進めていかなければならないなという風に思ったところであります。基本構想にこういう考え方があって、その考え方に基づきながら基本計画をつくられたという話でしたけれども、もう少しそこを丁寧に説明されると町民の理解につながっていくのではないかと思いますので、もう少しそのことを考えてみてもらえるとよいと思います。

【渡邊会長】

私の方からは今回いろんなご意見があった中で、町民の方の暮らしに密着した施設ということで、花壇づくりを町民の方々がするのはどうかという話がありました。花壇づくりばかりではなくて、その施設の中で住民が参加できるものがもう少し見えてくるといいのかなという感じがしました。そういう町民の声を大事にしたいなということと、それから先程から施設の施工とその後の運営の問題について、皆さんからいろいろと意見が出されていましたが、運営をするということになると今まで住民の方やワークショップ参加者、審議会委員など、いろんな方々がこの事業に携わっていろんな想いを詰めてこられ

たものが、ちゃんと引き継ぎがされないといけないという風に思います。そうするとそこに携わるスタッフの方、責任者の方がそういった想いを受け止めながらやっていく。そのためにはスタッフの人材育成をやっていくことが必要だと思いました。そういったことも含めて、今後、この事業が前に進むように頑張っていたきたいなという風に思います。

【森委員】

すみません、いいですか。ここにきて言うのはどうかなと思います。三股の方から何ができるんだろうな、どんなものができんだろうなと町内を回っているもんだからよく聞かれるんですよ。その時に、分かりやすい言葉で話ができない。これから何年か経って仕上がっていくわけでしょ。その時に何ができるっちゃろうかな、という中で漠然と進めるのではなくて、こういう形でここから三股のいろんなことを発信していくんだ。こういうところになるんだとびしゃっと言えるようでない。町民の方に分かりやすいものにしてもらえようにしてもらいたいですよね。早めにそれをやっていただきたい。よく聞かれるんですよ。どんげなっちゃってね、何ができるっちゃろうか、とよく聞かれるけど、言いようがないわけですよ。私とその審議員に入っていることも薄々皆さん知っていらっしゃって。皆さんにはもうちょっと待っててね。もう少しで固まるからと言っているんですよ。あそこはこういう形になる。何もかもはできないわけだから、何年か後にこういうものができるという風に言えるようにはならないかなど。

私が前に勤めていた頃に、若い新入社員に対して「10年はひと昔のこと」と言っていたが、その社員からは「森さん、今は1年前のことでもひと昔ですよ。」と言われたことがありました。それから何十年も経っているので、今は、どれくらいをひと昔というのか分からないんだけど、それからするとこれからもっと期間をかけてできあがっていくので、その間に町民を不安にさせないような形でこうやっ

ていくんだという、分かりやすい何かを一言で一つの書面で分かるようなものでお知らせしたら安心されるのかなと思います。町民の期待は大きいですよ。

余談になりますが、今、JAが本社をつくっていますが、そことどっちが広いかなとか言いながらいつも見ながらしていますけれども、あそこも相当広いですがね。広さばかりだと向こうのほうが広かったりするんだろうけど、ここは三股の拠点ということでやっていくわけだから、はっきりとしたものを住民に分かりやすい形にしてつくりあげていただくといいのかなと思います。

【渡邊会長】

言われることはよく分かります。なかなか事業計画とか概要版をつくっても頭に入ってこないんじゃないかなという風に感じているんですよ。だからそれを具体的にどんな形で示せるとみなさんが納得されるのか。あと見えるのか。そういうところを今後考えていかないといつまで経ってもよくわからないまま事業が進んでいかなければならないので、そこを工夫して進めていけばいいのかなという風に思いました。そういうことですよね。

他にはございませんか。

【松竹委員】

ごほんまっくんは誰が考えたんですか。いいですね。おそらくこれから施設の愛称ができるかと思いますけれども、町民の方に馴染みやすい建物のデザインもそうですし、施設の名前とかこの施設をどう使うかとかを町民の皆さんと一緒に楽しんでいただけるといいなという感じがしました。余計なことを言いまして、すみません。ごほんまっくんを見て思いました。

【渡邊会長】

委員の皆さんの意見を踏まえて、今後進めていってほしいなと思います。この後は答申について、事務局より説明をお願いします。

6 事務連絡

【渡邊会長】

推進室からこのような内容で答申の付帯意見としてはどうかとの説明がありました。委員の皆さんからご意見等はございませんか。

【藤野委員】

先程申し上げました収支のことはどこかに入れるべきではないかと思えます。どういう表現にするかはあれですけれども、やはり持続可能な運営が担保されるようなことを入れるべきではないでしょうか。我々、銀行員が計画というと、事業計画の収支が8割を占めますので、答申案についてこの考え方でというのはちょっと個人的には物足りないような気がします。

【渡邊会長】

今のご意見に対して事務局としてはどうでしょうか。

【事務局】

具体的な事業の収支とか収益構造の作り方については、今後、官民連携の共同事業体を立ち上げて、そこで具体的な検討に入って行くわけですけれども、そこに向けて審議会からの意見という形でそのことも含めて言及しておく必要があるという判断であれば、この案を少し修正する必要があるかなと思います。

【渡邊会長】

施設整備については、色々と書かれていますけれども、運営についての考え方というのは今言われました、持続可能な考え方でその収支という点は大事なことだと思います。そういうことも入れてはということですが。

【藤野委員】

いろんな意見の中で、将来の町民に負担をかけないとか。収支はちゃんと取れる計画なのかという意見が出ている中では、やはりそれはしなければならないことだと思います。具体的に売上があってということではなくて、持続可能だとか、しっかりと収益がとれるとか、将

来の町民に負担を求めないような計画であるべきとか、何かそういう表現を入れていただくと良いと思います。

【松竹委員】

そのことについてよろしいでしょうか。今のご意見は良い意見だと思いますが、付帯意見の1番のところに大きく影響しているところだと思います。そう思って1番を読み返すと「まちの「身の丈にあった」施設とするため、維持管理費も含めた」とあります。この「維持管理費も」の「も」は何か大元があつての「も」だと思いますから、だぶん藤野委員から言われたことはそこに入っているのではないかなと思います。施設整備もそうだし、整備した後の維持管理費も含めて、そしてそれが持続していく。町民の負担がかからないようにしていく。それがここの「身の丈にあった」になると思います。1番のところに言葉を添えていただければいいのではないかなと。どういう言葉を添えるかは分かりませんが、改めてこの付帯意見を読み返していると1番のところ「維持管理費も」とあつたので、何に「も」なのかなと少し気になりましたが。それはこれをずっと作ってきた私たちはその建設費や維持管理費のこともだと分かっているからこの「も」が大体何を指しているか分かりますが、知らない人が読むと何の「も」なのかなと思いますので、その辺の言葉を藤野委員がおっしゃられたニュアンスのことを加えるといいのではないかなと感じました。

【渡邊会長】

トータルのコスト意識のところ収支のことも入ってくるかと思いますが、それに先立つ運営のあり方だとか、そういったことを含めての話がそこに入ってくれば、全体としていいのかなという風に感じます。良い表現はございませんか。

【藤野委員】

すみません、収支に拘って。銀行員としては大事なことです。

【松竹委員】

テレビをつければ、サステナブルやSDGsのことが取り沙汰されていますからね。そういう意味でも持続可能という観点は大切なことだと思います。

【渡邊会長】

今のご意見を盛り込むということで、その他全体的にはこれでよろしいでしょうか。それでは、少し休憩をして考えていただきたいと思います。修正したものを一度確認させていただいてから答申に入ったほうがよいと思いますが、すぐにできますか。

【事務局】

少しお時間をいただけますか。この次第に沿っていきますと町長をお呼びして、答申をしていただく流れで考えていましたけれども、修正作業に若干の時間がかかりますので、一旦、事務局で預かる形でよろしいでしょうか。今から頂いたご意見を踏まえて付帯意見に付け加えていきますので、10分、15分程度、お時間をいただきたいと思います。

< 休 憩 >

【事務局】

先程のご意見を踏まえて、付帯意見の1番を修正しました。

『まちの「身の丈にあった」施設とするため、維持管理費も含めたトータルのコスト意識をしっかりと持ち、「事業のねらい」の達成に真に必要な整備計画とするとともに、持続可能な事業経営を図ること。』としたいと思います。

【渡邊会長】

只今、事務局から付帯意見の修正案の説明がありましたが、こちらでよろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【藤野委員】

最後に文句を言って申し訳ございませんでした。

【渡邊会長】

以上で協議事項は全て終わりましたので、事務局にお返しします。

【事務局】

渡邊会長、大変お疲れ様でした。ここで事務連絡です。このあと、いったん休憩をはさみまして、町長をお呼びします。休憩の後、会を再開し、会長から町長への答申となります。あわせて、委員の任期についてご説明します。「三股町交流拠点施設整備事業 審議会設置条例」第5条において「委員の任期は、委嘱の日から当該諮問に係る審議会が終了した日までとする。」と規定されています。基本計画に関する諮問については、本日の答申をもって審議終了となりますので、皆さんの委員の任期も本日の審議会ですべて終了となります。委員の皆さまには長きにわたって、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

委員としての役割は本日で終わりますが、本事業はまだまだ検討しなければならないことがたくさんあります。今後とも皆様のご協力を頂く場面があると思いますので、引き続きご理解ご協力を賜りますようお願いを致します。

只今、答申のために町長をお呼びしておりますので、もうしばらくお待ち下さい。

7 答申

【渡邊会長】

はい。それでは、答申をいたします。

※答申の内容については別添のとおり。

8 町長謝辞

【木佐貫町長】

皆さまこんにちは。皆さまにおかれましては、大変お忙しい中であつたろうとは思いますが、本町のこの三股町交流拠点施設整備事業基本計画の策定にいろいろとご協力いただきまして本当に有難うございます。2年近くに渡って、議論を重ねながら基本計画ができあがったところではございますけれども、この基本計画自体が基本構想を策定するにあたって、町民ワークショップとかいろんな意見を踏まえながら、基本構想の中で町の拠点整備の目指す方向性を決めていただきました。それに基づいて、基本計画ができあがったものと思います。そして、また基本計画の中身は今日のこの答申にもありますように本当に地元にあるいは町民に対して支持され、そして本事業の目的にあります『賑わい、交流、憩い』そういうものが、町民が足を運んでくれると、そして賑わっていくと、そのような地元に着した施設整備も含めて、運営、維持管理、そういうものに取り組んでまいりたいという風に思っております。身の丈にあった、しかし、その中身は実際には効率的に動いて、作ってよかったなど。やはり三股町の魅力の1つになっていくなど、そういうような施設設計にしていきたいなと思います。

話題になっているかと思えますけれども、今日発表があつたということで、昨年もあつたんですけれども、大東建託という会社が街の住みこちランキングというので、九州・沖縄版、街の幸福度、そして住み続けたい街ランキング2021が今日発表したのではないかと思いますけれども、270いくつかある九州の町の中で三股町が幸福度ナンバー1ということでの発表がございました。我々は地元に住んでいてそういう実感は正直ないんですけれども、その中でこの街の静かさとか治安とかいうのを他所からの住民アンケートの中でそういう支持を受けたということでありまして、大変ありがたい評価だと思います。もちろん県内で1番ということもございます。それも偏に三股町が今までやってきた施策がそれなりに評価を受けているのではないか

なと思います。特に子育て支援については、以前から皆さまからバックアップされまして、評価されまして、そして若い人たちが増えているような状況でございます。そういう人たちに対して答えられるようにこの拠点整備が町の評価に益々積み重ねられていって、本当に実感できるまちづくりになるように努力したいなという風に思います。今回の基本計画ですから、これからがこの事業のスタートになっていくのかな。これからこれに魂を入れていく基本計画になっていけるよう、そういう意味合いでは皆さまにはいろんな面でまたお力添えをいただきたいなという風に思います。計画をつくって終わりではなくて、これから勝負だと思っています。そして、令和7年度のオープンに向けてしっかりと魂を込めて取り組んでいきたいという風に思いますので、またいろいろとご指導を賜われれば有り難いと思います。意見をしっかりと踏まえて取り組みますので、今後ともご指導ご鞭撻をいただきますよう申し上げて、そして感謝の気持ちを伝えて、挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

9 閉会

以上のおり、会議の議事録を記録し、これを証するため署名する。

令和 3 年 11 月 22 日

署名者

平部 隆典



署名者

森 秋生



三股町交流拠点施設整備事業 各種委員一覧

審議会

| No. | 所属 | 役職 | 氏名 |
|-----|---------------------------|-----|------------|
| 1 | 三股町役場OB | | 渡邊 知昌 |
| 2 | 三股町自治公民館連絡協議会 | 会長 | 西山 繁敏 |
| 3 | 南九州大学 | 教授 | 関西 剛康 |
| 4 | 三股町商工会 | 会長 | 廣瀬 吉弘 |
| 5 | 女性団体連絡協議会 | 会長 | 森 秋生 |
| 6 | 都城土木事務所 | 所長 | 原口 耕治 (R2) |
| | | | 平部 隆典 (R3) |
| 7 | 都城工業高等専門学校 | 准教授 | 杉本 弘文 |
| 8 | 宮崎県建築士会 | 会長 | 松竹 昭彦 |
| 9 | N P O 法人宮崎県ノルディックウォーキング協会 | 理事 | 細山田 三保子 |
| 10 | 宮崎銀行三股支店 | 支店長 | 黒木 哲也 (R2) |
| | | | 藤野 和雄 (R3) |